

2019年JAF北海道ダートトライアル選手権第1戦 2019JMRC北海道Winmaxダートトライアルシリーズ第1戦  
2019JMRCオールスター選抜第1戦 第41回糠平湖氷上タイムトライアル [JAF公認No.2019-8501]

開催日：1月26～27日 開催場所：糠平湖氷上コース 格式：準国内 主催：TEAM-OSC [クラブ登録No.加盟49001]

フォト／加藤和由 レポート／JAFスポーツ編集部

## 永井秀和選手、EP3シビックで待望の糠平初勝利！



FF-2/4WDクラスで快勝を飾った永井秀和選手。

**北**海道、冬のモータースポーツの伝統の一戦、糠平湖氷上トライアルが今年も1月26～27日に行われた。

今年の糠平は開催直前まで雪不足に悩まされたが、レースウィークになって降雪があったため、例年よりはやや役不足ではあったが、コースを仕切る雪壁も辛うじて作られた。ただ雪が少なかった分、氷の厚さは例年以上のものとなり、この大会で特別に使用が認められるスパイクタイヤを以てしても、攻略の難易度の高い文字通りの「氷上」トライアルとなった。

地区戦の開幕戦となった今回の一戦で2WD

部門の総合ベストを奪ったのはRWDクラスに参戦した和泉泰至選手。86でヒート2には2分00秒148までタイムを詰めた。

「2WDベストは多分、今日のレイアウトが86に合ってたんでしょうね。今年は氷の質が違う感じで難しかったですけど、試しに1本めから空気圧を落としたら、クルマが良くなったんです。パドックからスタートに向かうまで、明らかにトラクションが上がったのが分かりました」と笑って振り返った。

FF-1クラスは全日本ドラの内藤修一選手が全日本ジムカーナのトップスラロマーである

小武拓矢選手をヒート2で逆転して、糠平3連覇と貫禄を見せた。

「1本めは不甲斐なさすぎたので(笑)、2本めはとりあえずガムシヤラに走ろうと攻めたら、結果的にタイムがついてきた感じです。ワダチもできるだけ飛ばされないように、ラインに気を付けて走りました。スパイクの効く所と効かない所があって、いつもとは違って難しかったですね」とホッとした表情を見せた。

全日本ジムカーナを戦うCR-Xからフィットに乗り換えた小武選手は、「2本めは、熱くなりすぎて、流し過ぎて空回りしちゃいました(笑)。でも内藤さんの5秒落ちが目標だったので、それは達成できたんで良しとします」と笑顔を見せた。

今回、最多の参加台数となったFF-2/4WDクラスは、昨年の最終戦で念願のEP3シビックの初優勝を獲得した永井秀和選手が、ヒート1、2分02秒371で暫定ベストを奪取して、全日本を転戦する山田将崇選手が約1秒遅れの2番手につけた。

勝負の2本目。永井選手は2分00秒782へ



1. J-1クラスは池田雅将選手が優勝。「いつもより横に流れる感じがあってビックリしたが、回りの方々のアドバイスのおかげで勝てました」。2. J-2クラスは村上周選手が優勝。大会10日前に出来上がった新投入のGDBで逃げ切った。



3. 4WD-2クラスで2位入賞の小谷泰寛選手。4. 海野正樹選手はFF-2/4WDクラスで3位入賞。5. 同じくFF-2/4WDで2位入賞の川口昭一選手。6. 全日本スラロマーの小武拓矢選手は2位入賞。7. FF-1は全日本を追う内藤修一選手が賞状の走り輝平3連勝。8. RWDクラスでは和泉泰至選手が2WD総合のベストタイムを奪って快勝。9. 白山真司選手はJ-1で2位入賞。10. 西村俊希選手はJ-2で2位入賞。11. FF-1岡村巧選手は3位入賞。12. J-2で3位入賞の三輪晴也選手。13. J-1で3位入賞の伊藤紀久選手。14. 古沢聖樹選手は4WD-2で3位入賞。15. Closed 1入賞の皆さん。16. Closed 2入賞の皆さん。17. J-1入賞の皆さん。18. J-2入賞の皆さん。19. FF-1入賞の皆さん。20. FF-2/4WD入賞の皆さん。21. RWD優勝の和泉選手。22. 4WD-2入賞の皆さん。23. 4WD-2で3年連続優勝の小林茂則選手。24. Closed 1で優勝の笹原孝志選手。25. Closed 2で優勝の鳴瀬秀徳選手。26. Expertで優勝の田辺剛選手。



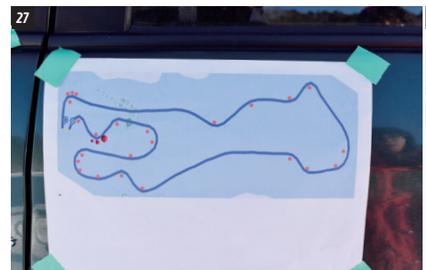
とタイムアップするが、山田選手はミスコースでタイムを残せず。ラストセクテンの川口昭一選手が山田選手のヒート1のタイムを凌ぐ2分02秒714を叩き出すがこちらも届かず、永井

選手が大差をつけて快勝した。「EP3は手なづけるのに3年かかりました。スイートスポットは狭いし、ギア比も離れるので難しいクルマです。今日は1本めから壁に

ぶつかったりして決して良くはなかったけど、アウトのフカフカにはハマらないよう気を付けて走りました」と年を跨いでの2連勝にしてやっりの表情を見せた。

4WD-2クラスは、この大会2連勝中の小林茂則選手がヒート1で1分47秒048を叩き出してまずは暫定ベストを奪う。ヒート2に入ると小谷泰寛選手が1分47秒台に入れるも、小林選手を凌ぐことはできず、逆に小林選手は1分45秒台に叩き込んで今年もライバル達を寄せ付けず、糠平V3を決めた。

ジュニア対象のJ-1クラスでは池田雅将選手がヒート1の5番手から見事な逆転勝ちを見せ、J-2クラスでは村上周選手がヒート1でマークしたタイムで逃げ切った。



27.28. 暖冬の影響で十分な雪壁は作れなかったものの、今年も例年通りの豪快な氷上コースが設定された。